

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 研究期間 平成20年度～平成22年度
5. 課題番号 2 0 5 0 0 6 5 4
6. 研究課題名 無文字社会に生きる女性自立支援の為の伝統染織技術教育指導プログラムの開発と実践

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 3 2 2 4 3 4	フリガナ シモダ アツコ 下田 敦子	人間生活文化研究所	助手

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究は、無文字社会に生きるタイ北部山地民(カレン族)女性らを自立支援するとの立場から、女性らが手に職を付けるための「伝統染織技術教育指導プログラム」を開発し普及させることを目的としている。

1) 21年度は、初年度に作成した「染織技術教育指導プログラム」(以下「指導プログラム」)を精選し、タイ北部チェンマイ県ドーイサケット郡P村のカレン族女性を対象として試験的な使用を開始した。

2) また、カレン族女性ら(12～18歳の106名)を対象として「指導プログラム」で取り扱っている技術項目のうち34項目の技術を精選し、これらの教育指導の順次性を検討した。方法: 対象者106名の34技術項目の習得の有無を手がかりにして、項目反応理論(IRT: Item Response Theory)により困難度bと識別力a、技術項目ごとの平均習得年齢を求め、これらの情報から技術項目の指導の最適時期を探索した。つまり、aとb、技術項目ごとの平均習得年齢 μ とその標準偏差 σ を求めた。次いで μ に対するa、bおよび σ を2次元座標上に布置し、無差別曲線(indifference curve)を仮定してその分布を検討したところ、明確に最適化問題を解く手がかりを得ることが出来た。これにより、年齢に適した技術項目の指導順序に関する有力な情報(どの技術項目をいつ、どんな順序で習得していくのがよいか)をつかんだ。なおこの研究方法は同種の技術指導や伝承に関する最適化問題に応用可能と考える。

10. キーワード

- (1) 無文字社会 (2) 女性 (3) 自立支援
- (4) 染織技術 (5) 教育指導プログラム (6)
- (7) (8)

(裏面に続く)